

公民館報

発行
2019
9/30

●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
●編集 公民館報編集委員会
●印刷 株式会社プラルト

まつもと



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 45

国宝松本城をバックに 日本の夜空を彩る花火

古城とコラボ

7月10日(水)
の午後9時、松
本城主戸田家ゆ
かりの例大祭
で、恒例の花火
大会が開催され
ました。

打ち上げ時刻
の直前まで降っ
ていた雨もあが
り、心地良い風
に花火の煙が流
されて古城を包
み、妖艶な雰囲
気の中で次々と
打ち上げられま
した。

古城の後方に
上がる花火は、
インスタ映えす
るので、見物者・
カメラマンで賑
わっていました。



力走！ ボランティアに見守られ

スタート地
点では場
外案内も
受け持
ち、関係
者が駐車
場からス
ムーズな
移動がで
きるよう

活動内容
実行委員会が本年2月から募集を始め、市内の方を中心に、個人または団体で約3000人の応募がありました。その内1200人は、実行委員会が市内14地区に依頼し応募した人たちです。
主な内容は、給水・給食所係、コース沿道整理、スタート・フィニッシュ会場係、AED自転車救護係とさまざまです。その中で各地区に任せられる主な活動は、地の利を生かしたコース整理です。特にス

笑顔でランナーを迎えましょー！
10月6日(日)に開催される「第3回松本マラソン」にはマラソンの部8302人、ファミリーランの部313組666人のランナーがエントリーしています。市内を縦断するこの大きなイベントの成功のため、準備を進めるボランティアに着目しました。

スタート地
点では場
外案内も
受け持
ち、関係
者が駐車
場からス
ムーズな
移動がで
きるよう
誘導します。
またいくつかの地区は他のボランティアとともに、給水・給食所を受け持ち、フィニッシュ地点ではランナーの荷物
の返却もあります。

事前準備
8月21日～9月3日にかけて4回に分けて総合体育館で事前説明会が行われました。その打ち合わせ内容は多岐にわたりました。当日のスケジュール、役割分担の説明はもとより、例えばコース管理の説明では、ランナーのみならず、観客への配慮にも重点が置かれていました。
さらに各パートごとに前回の意見も参考に活発な意見交換が行われました。
また、各地区では地域づくりセンター長が中心となり準備が進められ、別日程により地区ごと公民館において事前説明会が実施されました。

応援で走る力を(寿地区)
寿地区で特徴的なことは、寿小学校をはじめとする、小中学校の金管バンド、吹奏楽部の生徒たちが沿道で応援演奏を行います。また、百瀬町会では、マラソンコースが町会の真ん中を走っていることもあり、自主的に独自の応援を準備しています。
第1回大会では公民館に40～50人が集まり、手作りの応援幕や音の鳴る応援グッズを用意し、当日はそのグッズを手にランナーを応援しました。今年も同様の応援が予定されています。町会長は「ランナーの皆さんの力になるような応援をしたいです」と話していました。

みんなの力で(今井地区)
各町会に役割を割り振り、110人を集めました。フィニッシュ地点での給水係と、ランナーの荷物の返却係が主な活動です。荷物はゼッケンと荷物のナンバーを照合しながら手渡します。あらかじめ荷物は受け渡しの混雑を緩和するために、ゼッケン順ではなく、末尾の番号でグループ分けされています。しかし、約8300人の荷物です



縁の下の…地道な努力

笑顔でボランティア
から、大勢の係員が必要となります。
今回、マラソンの部の制限

懐かしのチンチン電車の映像をみよう
わがまち自慢(東部地区)
東部公民館では、3年前に上映された「蘇る思い出の鉄路」を再上映してほしいという住民の要望があり、8月27日午後2時半から福祉ひろばで上映会を開催しました。
昭和39年に制作されたこの映像からは、当時の生活風景もうかがうことができ、また、「懐かしいね」とかき水を楽しみなながら、昭和に戻ったような、のどかでゆったりとした時間が流れるひと時でした。
また、同時上映されたVTRは、松本市の「地域再発見情報発信事業」として制作されたもので、東部地区の地域活動としてのスポーツ大会や餅つき大会などを楽しむ顔なじみの笑顔に出会え、ほのほのとした晩夏の集いでした。



時間が30分長い6時間となりました。ランナー、スタッフおよびボランティアは長丁場となり、熱中症等の注意が必要で、「安心・安全」で無事に終えられるよう、注意喚起も事前に行われています。
前回は台風で中止となりましたが、今年はマラソン日和に恵まれ、支給されたネイビーブルーの帽子とベストに身を包んだボランティアの活躍とともに、成功裡にフィニッシュすることを祈ります。



至近距離にクマが!!

クマは本来木の実や草の実などが主食の、温厚で臆病な動物で、通常は人間に気がつけば自ら逃げるため、出くわすこと自体滅多にありません。個体間に縄張りはないので、食べ物豊富な場所には、複数の個体が出没します。

クマの生態と特徴

クマは餌探しに夢中になっていたたり、水音や風の音で気が分かりにくい場合などに遭遇すると、人的被害につながってしまうことがあります。特に子連れのクマは、非常に神経質になっています。

クマの目撃例が多く

秋は行楽やキノコ狩りでクマと遭遇する危険が高い時期です。クマによる人的被害を防ぐために、クマの生態を知りましょう。

クマの目撃が頻発してきます

写真でつづる まつもとの今昔④5

～平田のディスカウントショップ～



昔

(1976.6 写真提供: 日本報道写真連盟) 芳川平田の国道沿いにできたミスズボウルと猫のマークのサンアイ。ディスカウントショップのはしりであった。奥にはデンカセメントのタンクとハコスカがみえる。



今

(2019.9.1 撮影) ボウリングとゲームセンターに変わったが、建物とデンカセメントは同じに残っている。

山林内への立ち入りや、農作業をする場合は、万が一の場合を考えて、単独行動は避け、鈴や笛やラジオを鳴らすようにしてください。特にクマ

クマに遭遇しないために

クマが餌探しに夢中になっていたたり、水音や風の音で気が分かりにくい場合などに遭遇すると、人的被害につながってしまうことがあります。特に子連れのクマは、非常に神経質になっています。

クマが目前で立ち上がっても威嚇のため、すぐ襲って

もし目前に来たら

クマが先に気がつけば、ほとんどの場合クマの方から逃げに行きます。こちらに気づいていなければ、優しく人間の存在を知らせることも一つの方法です。大声を出したり、石を投げつけたりすると、クマが攻撃に出る可能性があります。

それでも遭遇したら

遠くにいる場合は静かにその場から立ち去りましょう。クマが先に気がつけば、ほとんどの場合クマの方から逃げに行きます。こちらに気づいていなければ、優しく人間の存在を知らせることも一つの方法です。大声を出したり、石を投げつけたりすると、クマが攻撃に出る可能性があります。



高い音が効果的、クマ避け鈴(鐘)

くるわけではありません。クマが怖がって威嚇をし、逃げようとしています。人間もゆっくり背中を見せず後ずさりして逃げましょう。背中を見せて逃げると本能で追いかけてくる可能性があります。市販のクマ撃退スプレーも有効ですので、携行したいものです。最悪の状況になったら、急所の顔・喉・後頭部・腹部などを、守りましょう。

おこひる

網戸がはまらない。猛暑に耐えかねて新しくしたエアコン工事の際、ついでに夏の大掃除をと思い、レースのカーテンを洗い、窓ふきをしていたら網戸が1か所外れてしまった。蚊の襲撃に遭いながら日没まで頑張ったがはまらない▼次の日、お隣さんが「網戸どうしたの?」と心配してくださって一緒に奮闘したがはまらない。「網戸がはまらない」で検索すると、全国になんとお仲間の多いことか。極意を得て慎重に試みたがはまらない。「私は用なしですか」とばかり、すっかりご機嫌を損ねてしまったようだ▼エアコンが入る前、帰省した孫がひどく夜泣きしてしまい、お隣さんに謝ると「子どもの声はいいもんだ」「2人目が生まれたね」と会話がはずんだ。夕方には、お隣の焼き魚のいい匂いがしてきた。信州の秋の訪れは夜風の心地よさで知る▼そんな日々を思いを馳せながら、三度目の正直で網戸に挑戦。なんと今までの難儀が嘘のようにすんなりとはまった。今夜も秋の虫の声を子守歌に眠る幸せを感じている。

(8月)

歴史探訪

探ろう松本 13

史跡の宝庫 中山

旧石器時代から令和へと続く「郷土愛」

地区の現状

中山地区は松本市の南東に位置し、令和元年7月1日現在1366世帯、人口3310人、和泉・埴原北・埴原南・埴原西・埴原東・棚峰の6町会で構成されています。

歴史と文化

坪ノ内遺跡に代表される縄文時代の遺跡からは、多数の住居跡をはじめ土器・石器・土偶などが数多く出土しており、中山は縄文時代から住みよい場所であったと思われます。

古代に入っても中山古墳群や埴原牧などの史跡を通じて、中央政権とのつながりがあきらかにされています。

中世の山城である「埴原城」は、村井氏が構築したといわ



古代の至宝 土偶

農村部と新興住宅街が共存している中山地区は、各町会同士の「つながり」をキーワードに大運動会・文化祭・町会対抗体育大会・ふれあいひろばまつりの開催や「公民館カフェ」を週2回開催するなど、コミュニケーションの場を住民がつくっています。

住民の取り組み

中山地区は大変貴重な史跡や史料の宝庫です。大正の初めに、小松正之氏が中心となって結成された「中山郷土研究会」の中山の宝を守り抜くという情熱は、現在も引き継がれています。松本市立考古博物館の存在は、その先人たちのゆるぎない努力のためものといえるでしょう。



情報発信事業として平成28年に開設されたホームページ「住んでよかった中山」は、昨年1年間のアクセス数が9000件以上に達しています。県外からのアクセスも多く、住民の運営による豊富な情報提供は大変好評で、地域力の向上に大きく寄与しています。中山史跡ウォーク・みんなが気楽に健康づくり・中山グリーンファームなどの活動は、中山の特性を生かした活性化策として継続されています。また、近年深刻化している松くい虫の被害拡大を抑制しようとして、松本市と連携を取り「松くい虫対策協議会」が結成されるなど住環境整備も含めて、まさに「住んでよかった中山」を実践すべく活発な活動が進められています。

ちょこつと

松本さんぽ

〜ジユウイチ〜

ハト位の大きさの夏鳥。大きな丸い目と、その周りに黄色いアイリングが目立つカッコウの仲間。他のカッコウの仲間より標高の高い所に多く、アルプス公園で見かけることは珍しい。ジウイチチーと繰り返す大きな声で鳴くことからこの名前がついた。特徴のある声であることから間違うことはないが、声はすれど姿が見えず、写真撮影はカメラマン泣かせ。コルリ、オオルリなどに托卵する。



(撮影:2019.5.17 アルプス公園)

地産地消のかんたんレシピ

大量消費に

『キュウリの佃煮』

ご飯のお供にぴったり!!

材料: キュウリ、塩昆布、鷹の爪、シウガ、砂糖、ゴマ、しょう油

1. キュウリはスライスして水にさらし、シウガは千切りにする
2. 1を鍋に入れて火にかける
3. 水分が出たら、しょう油、砂糖、塩昆布を加えて中火で煮る
4. 輪切りにした鷹の爪とゴマを入れて煮詰める

